

令6 高等学校書道（6枚のうち1）

（解答はすべて、解答用紙に記入すること）

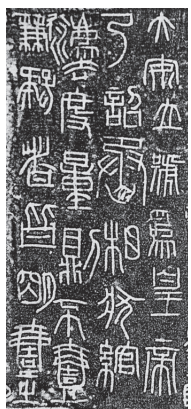
一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

（①）時代の甲骨文が卜占等の内容を記録したように、古来、文字は情報の伝達や記録のために用いられた。天下統一をした秦の（②）は、統治のために国内の文字や度量衡を統一した。統一された文字は（③）とよばれる様式で、**図版A**は青銅製の板に小刀で刻んだもので、四隅に小さな穴が開いている。木・竹簡や帛書に残された肉筆の書から、前漢時代の前期には、既に（④）を備えた隷書が書かれていたことがわかる。また、漢代は中国古印の最盛期と位置付けられることができ、封泥など印章を用いた制度・文化が確立した。三国時代、西晋時代になると日常筆記に用いられていた草書は、多様な表現を見せるようになり、更に東晋時代では（⑤）、（⑥）の親子が現れて「十七帖」「初月帖」「中秋帖」などの名跡を残し、草書は確固たるものとなった。^Ⅱ南北朝時代にはすでに楷書の書法が定着し、日常だけでなく石碑にも一般的に用いられた。唐の第二代皇帝（⑦）は、学者であり官僚であり書の名手でもあった^Ⅲ初唐の三大家三人を政治と文化を推進するためのブレーンとして重用した。

問一 文中の空欄①～⑦に当てはまる適切な語句または人名をそれぞれ漢字で書きなさい。

問二 唐の第二代皇帝の治世は最も国が安定した時代といわれているが、後に何と呼ばれたのかを解答欄に合うように漢字で書きなさい。

問三 **図版A**についてあとの問いに答えなさい。



図版A

- （⑧）安（⑨）號（⑩）皇帝
 （⑪）詔丞相状結
 度量（⑫）不壹
 歎疑（⑬）皆（⑭）壹之

(1) **図版A**の作品名を漢字で書きなさい。

(2) **図版A**の積文の空欄⑧～⑭に当たる文字をそれぞれ楷書で書きなさい。

問四 — **線部Ⅰ**～**Ⅲ**について、次の問いに答えなさい。

(1) — **線部Ⅰ**の印上部にしつらえられたつまみの名称を、漢字一字で書きなさい。また、制作者の名前などを側面に刻入することを何というか、漢字二字で書きなさい。

(2) — **線部Ⅱ**の時代、山東省の雲峰山に刻された作品名と、その作者名をそれぞれ漢字で書きなさい。また、天然の岩壁に文字などを刻したものを何というか、漢字で書きなさい。

(3) — **線部Ⅲ**の人名をそれぞれ漢字で書きなさい。

問五 次のa～cの臨書の方法について、それぞれ漢字二字で書きなさい。

a 古典の字形・用筆を忠実にまねて書く方法

b 古典をよく学んだうえで、書くときにはそれを見ないで書く方法

c 古典に漂う雰囲気や筆意など形以外の要素を捉えて書く方法

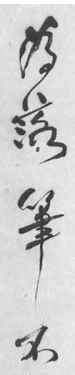
二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

宋時代、科挙を経た士大夫が政治や文化で活躍するようになった。北宋の三大家らも士大夫で個性的な書を残している。元時代の能書である趙孟頫は二王の書を追究し、晋・唐の古典を復古させた。清時代には、青銅器や石刻の文字を研究する金石学がめざましく発達し、北魏時代の楷書の碑や、さらに時代を遡って研究することが盛んになり、鄧石如・尹秉綬・吳熙載・何紹基・趙之謙ら碑学派とよばれる名家が現れ、各書体に傑出した作品を残した。また、この動向を推進した理論家として、阮元や包世臣らがいる。篆刻も詩書画と並んで盛んになり、吳熙載・趙之謙・吳昌碩らが優れた印を残し、後世に大きな影響を与えた。

問一 **図版A**～**G**の作品の作者を、右の本文に出てくる人名から抜き出し、漢字で書きなさい。



図版A



図版B



図版C



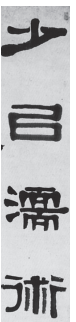
図版D



図版E



図版F



図版G

問二 — **線部**の「北宋の三大家」について、それぞれ人名とその代表的な作品名を漢字で書きなさい。

問三 次のa～cの書論の出典について該当するものを、あとのA～Iからそれぞれ一つ選び、その符号を書きなさい。

a 草書は連綿宛転すと雖も、然れども須らく停筆有るべし。

b 書に二要有り。一に用筆と曰い、二に結字と曰う。

c 書を学ぶや必ず先ず氣を作せ。

A 馮班『鈍吟書要』

I 朱履貞『書学捷要』

ウ 趙孟頫『論書』

エ 孫過庭『書譜』

問四 士大夫が、私生活で見せる趣味人としての姿を何というか、漢字二字で書きなさい。

問五 次のa・bの用筆法について、それぞれ漢字二字で書きなさい。

a 起筆の用筆法の一つで、穂先を包み込むように運筆する。

b aに対する用筆法。穂先を表わして運筆する。

問六 全紙の縦四分の三の大きさの画仙紙を何というか、漢字二字で書きなさい。

令6 高等学校書道（6枚のうち2）

（解答はすべて、解答用紙に記入すること）

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

奈良時代から平安時代初めの日本は、中国文化の摂取に専心した時代で、三筆と称される空海・嵯峨天皇・（①）ら能書が、晋・唐以来の中国書法に学んで優れた書を残した。

続く平安時代中期になると、文化全般に（②）化が進み、漢字も、日本の風土や感性に合った独自のものを創造するようになった。これを（③）という。（③）は、三跡と称される^{II}小野道風・藤原行成・（④）らによって完成の域に達した。

鎌倉時代中頃になると、宋・元時代の書法の影響を受けながらも個性的な書の特徴とする禅僧の書、いわゆる墨跡が中国から入ってきて、鎌倉から室町時代の日本の禅僧である宗峰妙超、（⑤）らは、独自の書風を展開した。また、鎌倉時代後期から南北朝時代にかけて登場した、尊円親王の伝統（③）に立脚した書風は、その後の書の基盤となり、江戸時代には（⑥）と呼ばれて永く命脈を保った。

そして、安土桃山から江戸時代初期には、戦乱の世を経て沈滞した書の世界に、伝統に縛られず自由な表現を求めて新たな息吹をもたらす^{III}近衛信尹・（⑦）・松花堂昭乗らが現れ、絵画や工芸と書との融合が図られるなど、意欲的な活動が展開された。

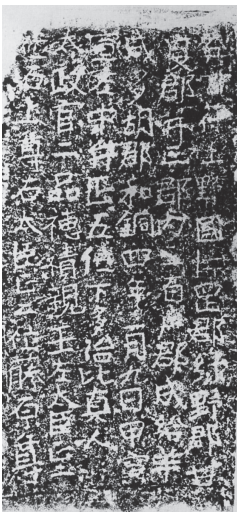
江戸も後期に入ると、書を職業とする専門家が現れ、大いに活躍した。とりわけ、市河米庵などは、門人が数千人いたともいわれ、その影響力は絶大であった。この米庵の他にも巻菱湖や（⑧）の能書も活躍した。

問一 文中の空欄①～⑧に当てはまる適切な語句または人名を、それぞれ漢字で書きなさい。なお、同じ数字には、同じ語句または人名が入る。

問二 次の図版A・Bは、日本上代の金石文の拓本である。それぞれの碑が所在する都道府県を次のア～オから一つ選び、その符号を書きなさい。また、作品名をそれぞれ漢字で書きなさい。



図版A



図版B

ア 宮城県

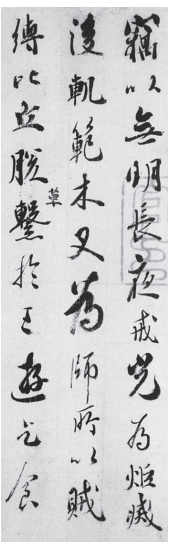
イ 栃木県

ウ 群馬県

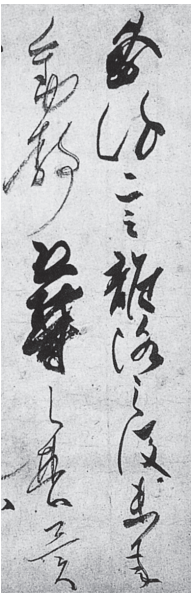
エ 奈良県

オ 京都府

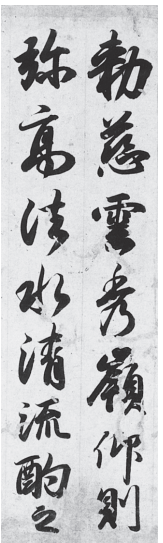
問三 線部I・IIの人物が書いた作品を次の図版C～Fからそれぞれ一つ選び、その符号を書きなさい。また、それぞれの作品名を漢字で書きなさい。



図版C



図版D



図版E



図版F

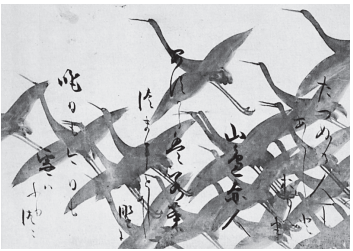
問四 左は、図版Fの釈文である。空欄⑨～⑫に当たる文字を、それぞれ楷書で書きなさい。なお、同じ数字には、同じ文字が入る。

側聞（⑨）父（⑨）母（⑩）之悲
之（⑪）彼（⑫）上大覚

問五 図版Dの初字に記されているような、草名が発展し、自署の代わりに用いられる記号もしくは符号を何というか、漢字で書きなさい。

問六 線部IIIについて、この三名を総称して何と呼ぶか、五文字で書きなさい。

問七 空欄⑦の人物は「絵屋と呼ばれる絵画工房を興した人物」と組んで数々の名作を残した。その人名を漢字で書きなさい。また、図版Gは、この二人による絵と文字が調和した作品の一部である。作品名を漢字で書きなさい。



図版G

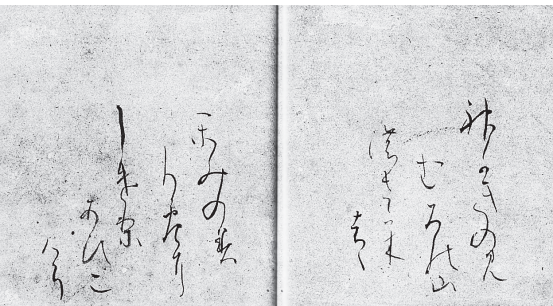
令6 高等学校書道（6枚のうち3）

（解答はすべて、解答用紙に記入すること）

四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

四季の変化に富み、多様な姿の山や川、海に面し樹木が繁茂する日本では、古来、自然との調和を尊重しながら文化が発展してきた。日本人々は、自然の中にある多様性、変化といったものを重んじた。それは、和歌や俳諧などの文学、絵巻物や屏風絵などの絵画、書院や庭園などの建築のほか、さまざまな形で表現される書においても、日本人の（①）の中に美しさを見出す美意識に表れている。図版Aは主に『万葉集』と『古今和歌集』などの和歌一種を染紙二枚に渡って書いた作品。龍安寺の庭園をほうふつとさせるような構成である。このように、行の高低や行間に変化をつけて書く方法である（②）を用いたり、（③）の位置を工夫したりすることで空間の美しさや立体感を表現できる。図版Bは、京都の寺院に伝えられた作品。この作品では（④）に対し、和歌を読みやすくするための書く方法である（④）で書かれている。

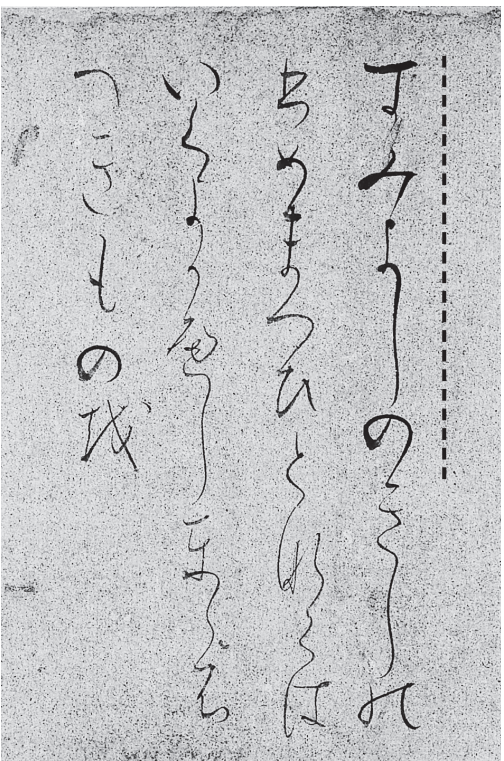
漢字の伝来によって文字と出会った日本人々は、言葉の響きや人々の感情に寄り添う文字『仮名』を生み、平安時代の貴族たちは、その表現を存分に追求した。今では誰もが自由に音楽を聴き、自由に本を読むことができるが、当時は、作者が詠んだり書いたりしたものを書き写す方法や、口伝という方法でしか知る手立てがなかった。つまり、私たちが現在目にするこのことができる、（⑤）と呼ばれる仮名の名品の多くは、平安時代の貴族を中心とする教養人の間でのみ共有され、共通に理解することができる特別な品であったといえる。さらに、平安貴族の美意識の域を集めたともいえる（⑤）には、日本の風土や四季折々の景色を模して作られた（⑥）などに淡々と流れる水のようにであったり、時に激しく連続したり、あるいは間を保つといった書き手の呼吸や感情と効果音までもが、仮名の（⑦）のリズムとなつて表現された。また、（⑤）の多くは筆者の署名がない。さらに十六世紀の終わりごろから巻子本や冊子本だったものが茶の湯の興隆や収集家の影響によって裁断され、（⑧）となったために、多くの情報が失われた。筆者が特定できないものは、（⑨）として現代に伝わっている。



図版A



龍安寺の庭園



図版B

問一 文中の空欄①～⑨に当てはまる適切な語句をそれぞれ漢字で書きなさい（一部送り仮名を含む）。ただし、①については最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、その符号を書きなさい。なお、同じ数字には、同じ語句が入る。

- ア 不公平 イ 不均衡 ウ 不合理 エ 不調和

問二 —— 線部Iより、次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

よろづのこと、昔には劣りざまに、浅くなりゆく世の末なれど、仮名のみなん今の世はいと際なくなりたる。当時、相手と容易に会うことができなかつた上流貴族にとって、教養や感性を反映している和歌やそれをしたためる書が、相手を知るための重要な役割を果たしていた。文中には、主要人物の描写の多くにその人物の筆跡の批評も伴って書かれている。

(1) 書における紙の選択、墨色や書き方の会得の大切さなどの描写があるこの作品名と作者名を答えなさい。

(2) 線部の大意として最も適当なものを次のア～オの中から選び、その符号を書きなさい。

- ア 全てのことか浅はかになり、仮名の区別もなくなった。 イ 仮名文字だけは、昔の書きぶりの方が素晴らしい。
ウ 今は世の末だが、仮名だけは誇れる尊いものだ。 エ 昔よりも劣る世の中のでいで、仮名の使い手が増えている。
オ 全てが劣ってゆく世の中で、仮名も当時の輝きをなくしている。

問三 —— 線部IIについて、①巻子本と②冊子本について説明しなさい。

問四 図版Aと図版Bの作品名をそれぞれ漢字で書きなさい。

問五 図版Bについて、次の問いに答えなさい。

(1) 図版内の……線部のように続けて文字を書くことを何というか。漢字で書きなさい。

(2) 解答欄に合うように読みを平仮名で書き、その字源となる漢字を例に習い、それぞれ書きなさい。例) すみよしの ↓ 寸美与之乃
問六 『古今和歌集』の撰者・三十六歌仙のひとりで、『仮名序』を執筆した人物が書いたとされるものを、次のア～コからすべて選び、その符号を書きなさい。

- ア 高野切古今和歌集 イ 香紙切 ウ 秋萩帖 エ 寸松庵色紙 オ 関戸本古今和歌集
カ 桂本万葉集 キ 中務集 ク 本阿弥切古今和歌集 ケ 十五番歌合 コ 粘葉本和漢朗詠集

令6 高等学校書道（6枚のうち4）

（解答はすべて、解答题紙に記入すること）

五 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

私たちは普段、生活のいろいろな場面で文字を書く。携帯電話やパソコンが普及し、キーボードやタッチパネルなどで文字を入力する機会が増えているが、ことばや文章を、筆記用具等を用いて紙などにメモする、名前や住所を書く、ノートに授業の内容を記録する、試験の答案用紙を書くなど、文字を書く場面はたくさんある。小・中学校の授業で培った（①）能力は、そのような場面で大変役に立っている。

小・中学校では、^{II}文字を正しく、整えて、読みやすく書くために、様々な学習をする。高等学校では、小・中学校で身に付けた能力をさらに向上させるとともに、様々な書の表現技法を学んでいく。また、幅広い書の美に触れることで感性を磨き、漢字や仮名などの文字を素材に自己表現することを目指す。

問一 文中の空欄①に当てはまる適切な語句を、漢字二文字で書きなさい。

問二 — 線部Ⅰについて中国では古来より、筆・硯・墨・紙を必需品として重宝していた。これら四つの道具を総称して何というか、漢字四字で書きなさい。

問三 — 線部Ⅰについて、次のア～オの都道府県の産地五か所で作られている硯・紙・筆の名前を、漢字で書きなさい。
なお、アは硯の名前を漢字三字で、イ、ウは和紙の名前を漢字四字で、エ、オは筆の名前を漢字三字でそれぞれ書きなさい。

ア 宮城県

イ 福井県

ウ 鳥取県

エ 兵庫県

オ 広島県

問四 — 線部Ⅱについて、次のa～cの筆の持ち方（指法）および腕の構え方（腕法）の名前を漢字三字で書きなさい。

a 筆の軸に人差し指と中指の二本をかける筆の持ち方

b 腕を机につけず、宙に浮かせて書く方法。大きな字を書くのに適した腕法

c 一方の手を枕にし、他方の手首をその上に乗せて書く方法。小さい字を書くのに適した腕法

六 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい（図版の落款は省略している）。

日本では、日本語を表記する過程で漢字と仮名を交えた漢字仮名交じり文が成立した。鎌倉時代に、漢字仮名交じりの文による表記が一般化すると、多くの古典文学が書き写され、絵巻の（①）（絵巻の物語の説明文）には、漢字仮名交じりの書の表現がなされた。また書状、墨跡や（②）（天皇の書）などにも多くの漢字仮名交じりの書が残されている。（③）時代には、金銀泥による豪華な下絵に表現された作品などが生まれ、近代にいたっては、^I文学者などに独特な漢字仮名交じりの書が数多く見られる。現代では、生活や社会における ^{II}実用書の他に、^I展覧会芸術として、様々な造形的な作品が発表されている。

問一 文中の空欄①～③に当てはまる適切な語句をそれぞれ漢字で書きなさい。

問二 — 線部Ⅰについて、図版Aの作品の作者名を答えなさい。

問三 — 線部Ⅱについて、日常的に手紙を書くことがあるが、平安時代に書かれた現在東寺に所蔵されている、空海が最澄に宛てて書いた手紙である風信帖の三通目のことを何というか、漢字三字で書きなさい。

問四 中国唐の時代に書かれた、顔真卿が郭英乂に宛てた抗議文（手紙）の草稿である作品名を、漢字五文字で書きなさい。

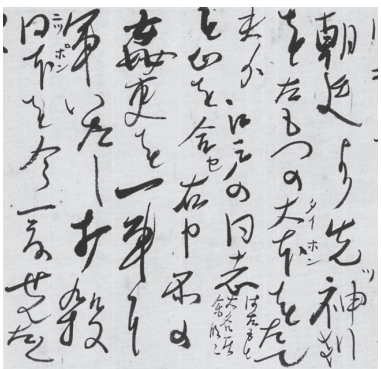
問五 次の図版B、Cの手紙を書いた人名をあとの説明文を参考に、それぞれ漢字で書きなさい。



図版A



図版B



図版C

図版B ロンドン留学中の筆者が正岡子規に宛てた絵葉書。明治の文豪。

図版C 筆者が姉に宛てた手紙。「日本を今一度せんたくいたし申し候」という有名な一文を見ることができるといえる手紙。親しい相手に自らの思いを存分に伝えた内容。

令6 高等学校書道解答用紙 (6枚のうち5)

総計

--	--	--

問五	問四		問三		問二	問一		
a	(3)	(2)	(1)	(2)	(1)	⑤	①	
	人名	作品名		⑫	⑧	図版A		
						の治	⑥	②
b				⑬	⑨			
	人名	作者名					⑦	③
c				⑭	⑩			
	人名				⑪		④	

一			

問六	問五	問四	問三	問二		問一	
	a		a	人名	人名	図版E	図版A
	b		b				
				作品名	作品名	図版F	図版B
			c				
				人名		図版G	図版C
				作品名		図版D	

二			

問七	問六	問五	問四	問三	問二	問一		
人名			⑨	I	図版A	⑦	④	①
				図版	所在地			
				作品名	作品名			
			⑩					
作品名						⑧	⑤	②
			⑪					
				II	図版B			
			⑫	図版	所在地			
				作品名	作品名			
						⑥	③	

三			

総計
200

令6 高等学校書道模範解答 (6枚のうち5)

問五	問四		問三		問二	問一		
	a	(3)	(2)	(1)	(2)	(1)	(5) (1)	
形臨	人名	作品名	鈕	則	大	貞観 の治	王羲之	殷
	虞世南	鄭義下碑		則	大		詔版	王羲之
b	人名	作者名	側款	者	立		王献之	始皇帝
背臨	歐陽詢	鄭道昭		者	立		王献之	始皇帝
c	人名	磨崖碑	明	為	乃		太宗	小篆
意臨	褚遂良			為			太宗	小篆

一 44

問六	問五	問四	問三	問二		問一	
	a	文人	a	人名	人名	図版E	図版A
聯落	蔵鋒		ウ	蘇軾	米芾	呉熙載	鄧石如
b	露鋒	ア	c	作品名	作品名	図版F	図版B
				黄州寒食詩卷	蜀素帖	趙之謙	何紹基
イ				人名	人名	図版G	図版C
				黄庭堅	尹秉綬	呉昌碩	
				作品名		図版D	
				李太白憶旧遊詩卷		趙孟頫	

二 40

問七	問六	問五	問四	問三	問二	問一				
	人名	寛	⑨	I	図版A	⑦	④	①		
俵屋宗達	永	花押	惟	図版	所在地	本阿弥光悦	藤原佐理	橘逸勢		
				C	オ				作品名	作品名
作品名	の	三	筆	⑩	慈	光定戒牒	宇治橋断碑	⑧	⑤	②
				鶴下絵三十六歌仙和歌卷(鶴下絵和歌卷)						
無				⑪	者	貫名菘翁	一休宗純	国風		
				智証大師諡号勅書					多胡碑	⑥
				⑫	図版	所在地	御家流	和様		
				E	ウ	作品名			作品名	

三 40

令6 高等学校書道模範解答 (6枚のうち6)

四

問六	問五				問四	問三		問二		問一				
ア・エ・カ	(2)				(1)	図版A	②冊子本	①卷子本	(2)	(1)	⑥	①		
	字源	読み	字源	読み	連綿	継色紙	本が最古の資料。綴じ方の種類としては、粘葉装や綴葉装などがある。 本の装丁形式の一つで、綴じ本のこと。日本では空海の『三十帖冊子』 軸をつけて巻き込み、表紙をつけたもの。	卷物のことで、本の形としては最古の形態。絹や紙を長く継ぎ合わせて 軸をつけて巻き込み、表紙をつけたもの。	ウ	作品名	料紙	イ		
	以	い	幾	き						源氏物語	⑦	②		
	久	く	之	し						紫式部	源氏物語 作者名	運筆	散らし書き	
	与	よ	能	の								⑧	③	
	可	か	悲	ひ								断簡(切)	墨継ぎ	
	遍	へ	女	め								⑨	④	
	之	し	末	ま								伝称(承)筆者	行書き	
	東	と	川	つ								曼殊院本古今和歌集	⑤	古筆
	ノ	の	比	ひ										
	不	ふ	止	と										
	部	べ	那	な										
幾	き	良	ら											
毛	も	波	ば											
乃	の													
越	を													

四	40				
---	----	--	--	--	--

五

問四	問三		問二	問一	
a	工	ア	文房四宝	①	
双鉤法	有馬筆	雄勝硯		書写	
b	オ	イ		越前和紙	
懸腕法	熊野筆	越前和紙			
c		ウ			因州和紙
枕腕法		因州和紙			

五	20		
---	----	--	--

六

問五	問四	問三	問二	問一	
図版B	争坐位文稿	忽恵帖	作者名	①	
夏目漱石			棟方志功	詞書	
図版C			坂本龍馬	宸翰	②
					③
					江戸

六	16				
---	----	--	--	--	--